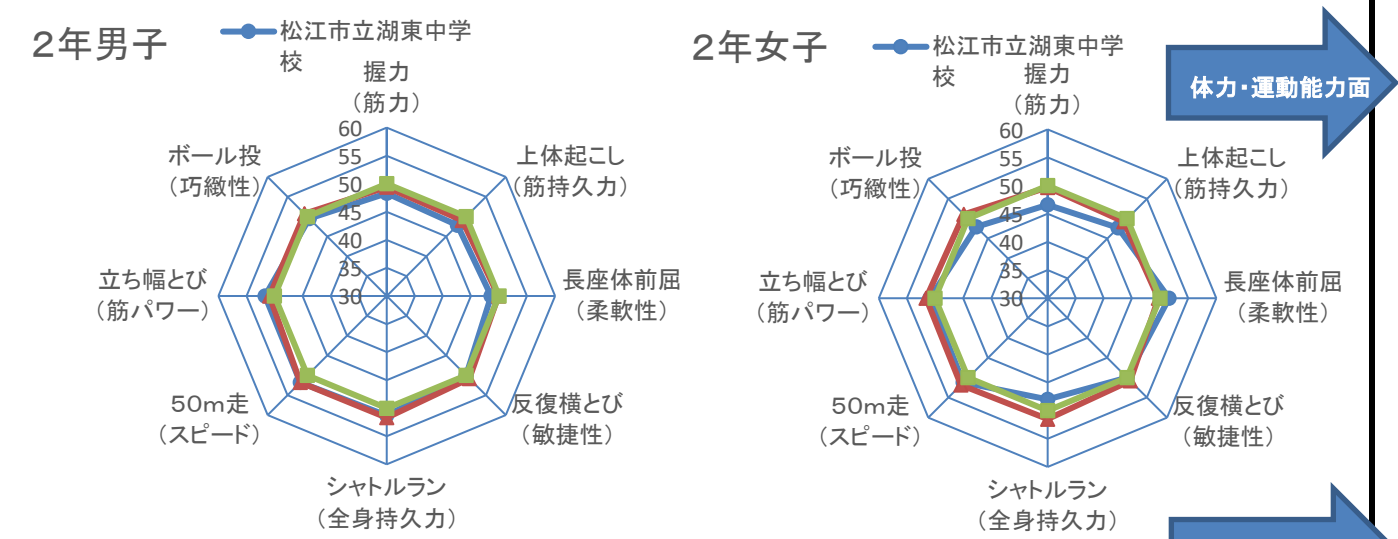
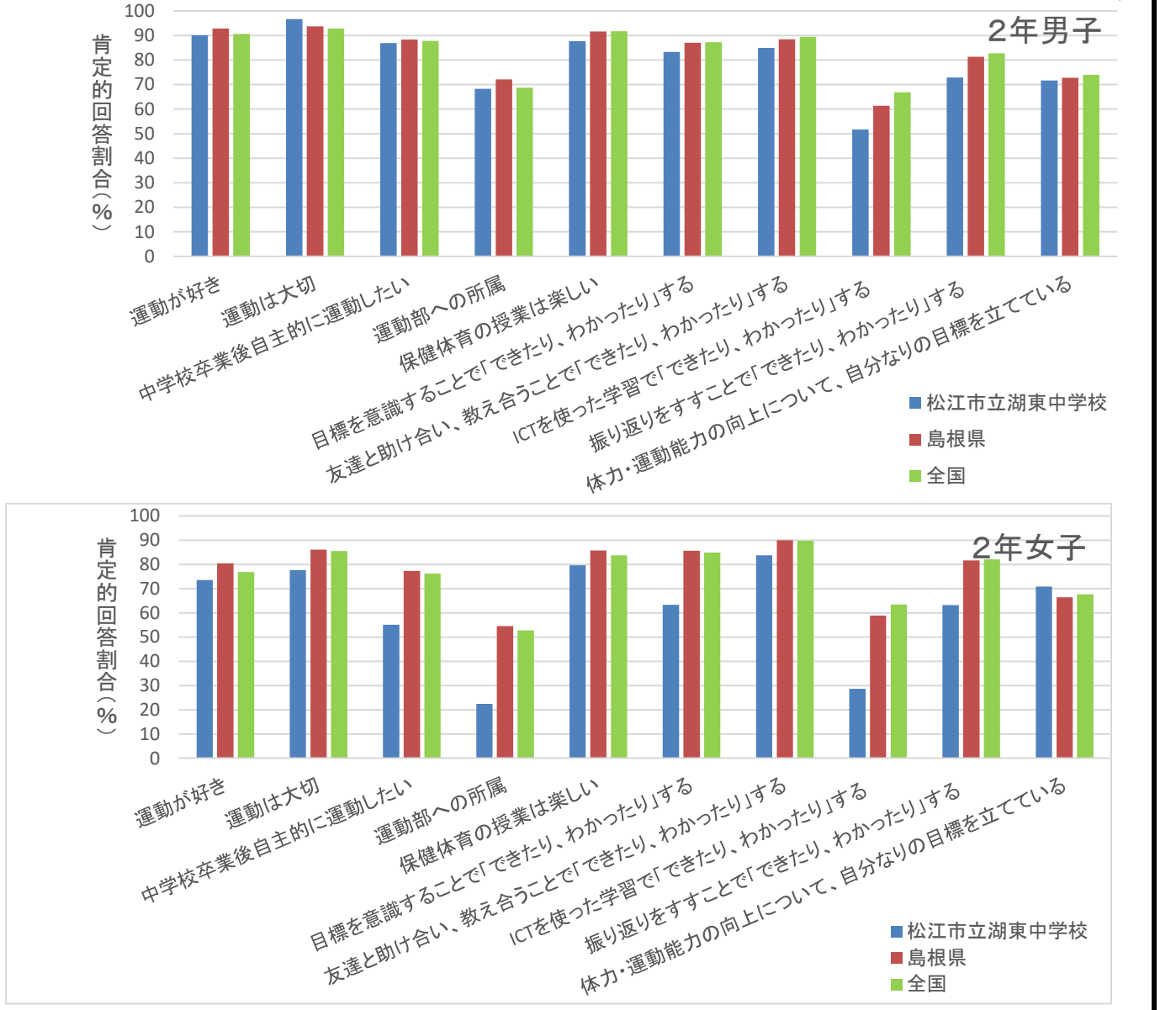


(1) 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-1.7	-2.2	-1.4	0.0	1.3	1.8	1.7	-0.5
女子	-3.4	-2.3	1.6	0.0	-2.0	1.2	0.9	-2.1

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	運動は大切	中学校卒業後自主的に運動したい	運動部への所属	保健体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い、教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する
男子	-0.5	3.8	-0.9	-0.4	-4.0	-4.0	-4.4	-15.1
女子	-3.4	-7.9	-21.1	-30.3	-4.2	-21.6	-6.0	-34.8
	振り返りをすることで「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている						
男子	-9.9	-2.3						
女子	-18.9	3.2						

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和7年度の方針【学校全体での取組】

新体力テストの結果から、男子も女子もある程度の項目において平均より高く、強みと言える半面、保健体育の目的にもある、「生涯にわたって運動に親しむ態度を養う」という視点からいくと、意識面がかなり低く感じる。生徒一人一人になぜ運動をすることが必要なかを理解させることができるように、保健体育科はもとより、日常の学校生活の中でもきちんと指導していきたい。